

報告 敦賀市民の避難所（奈良県天理市 二階堂小学校体育館）視察

＊簡易除染のバスが、小学校の駐車場へ。学校がホットスポットになる危険

＊体育館では、一般住民用の感染症対策のテント等もなし

2022.11.24、2023.1.17改訂版※1

11月6日、天理市二階堂小学校で防災訓練が行われました。美浜発電所のUPZ圏の敦賀市住民が賤ヶ岳サービスエリア（SA）でのスクリーニングを終え、奈良市鴻ノ池運動公園で乗用車の住民はバスに乗り換え、避難所である天理市二階堂小学校に移動しました。防災訓練は、体育館内での講習とスクリーニングの実演を見学するというものでした。

◇小学校までの訓練に参加した敦賀市住民は44人で、ほとんどが高齢者でした。全員マスクを着用していました。

訓練は、12:50～13:30頃まで。体育館の1階が訓練会場で、見学者は1階に入ることができず、2階での視察でした。そのため、住民の方の声を聞くこともできず、濃厚接触者用の別室も見えませんでした。

訓練には、福井県安全環境部危機対策・防災課参事（原子力防災）や奈良県危機管理監が参加していました。また、福井大学からの参加もありました。



敦賀市原子力災害住民避難計画 170頁図に天理市の文字等挿入

◆簡易な除染をただけのバスが、小学校の駐車場へ。学校がホットスポットになる危険



バス4台が小学校の駐車場に入り、訓練終了までそこで駐車していました。賤ヶ岳SAでの報告にあるように、バスの除染は国のマニュアル通りの簡易なもので、基本的にタイヤ側面とワイパー部分の測定と除染だけです。最も汚染されるタイヤの接地面やバスの屋根等は除染しません。そのような簡易な除染をただけのバスが、小学校の駐車場に入ってきます。これでは、小学校周辺が

※1：1月17日の天理市との面談で、バスは校庭ではなく学校の駐車場に入ったこと、及び濃厚接触者用の別室は体育館一角に間仕切りで用意したとの指摘がありましたので、その部分を改訂しました。

汚染され、ホットスポットになる危険があります。子供たちの安全を守るためには、避難先からの簡易な除染をただけのバスが小学校の駐車場や周辺に入ることにはあってはなりません。

◆感染症対策のテント等はなし

今回の訓練は、感染症対策も含むものでした。しかし、避難所の体育館では、一角に間仕切りで濃厚接触者用の別室は用意されていたとのことですが、一般住民の感染症対策のテントや間仕切り等はありませんでした。また、以前の敦賀市での訓練では実施していた、簡易ベッドの組み立てや間仕切りの設定等の訓練もありませんでした。



◆訓練は、講習とスクリーニング実演の見学だけ



訓練参加者は会場入り口で、弁当と資料を受け取り、訓練開始まで休憩と食事をし、その後の訓練は、スクリーニングのやり方の実演を見学するというものでした。

冒頭、天理市長など4名の挨拶の後、講習とスクリーニングの実演が始まりました。

最初に測定器の簡単な説明があり、放射能検出のサンプルとしてのラジウムが入った小袋を示し、その小袋を服のポケットに入れて測定器を近づけ、測定音が鳴るのを聞かせていました。

次に、手の平、手の甲、靴の裏を測定し、基準以上は体全体を測定すると説明し実演をしたのですが、測定器を当てたのは手の平と甲、頭、胸元だけでした。

除染する場合は、ウェットティッシュを使って自分で拭くように、と説明し、実演はなしでした。

実演の後の講習は、PAZとUPZの違いを覚えてください、という実に簡単なものでした。住民の皆さんは床に座って、熱心に見学していましたが、質問はありませんでした。

講習では、除染の基準についての説明はありませんでした。基準は40,000cpm（体表面汚染密度で120Bq/cm²）で、これは小児の甲状腺被ばくで300mSvに相当し、安定ヨウ素剤服用基準の6倍。さらに、「放射線管理区域の外に物を持ち出す基準」4Bq/cm²の30倍です。このような高い基準であることを住民に説明すべきです。

訓練は実質30分程度で、あっという間に終わりました。このような簡易な訓練は、原発事故の影響を小さく見せるためのものでしかありません。



2022. 11. 24、2023. 1. 17改訂版

避難計画を案ずる関西連絡会 防災訓練監視行動参加者一同

下の写真は2020年8月 福井県での訓練の様子